

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

ROTARY SERVING HUMANITY

～人類に奉仕するロータリー～

2016-2017年度 国際ロータリー会長 ジョンF. ジャーム



2016-2017年度

会長:高木一平 幹事: 柏木博喜 クラブ会報委員長:加藤智弘

創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30～13:30

例会場/ウェスティンナゴヤキャッスル 名古屋市西区樫の口町3-19 〒451-8551

事務局/TEL 052-684-6591 FAX 052-684-6592

2017 April 19

■ 2016～2017年度方針
ロータリー 清く 正しく 面白く

NO.37

例会報告

●第2170回例会 平成29年4月19日(水) 晴

●4月は母子の健康月間

●ロータリーソング 我らは愛あるロータリアン

●出席報告 会員 100名中 (88) 出席59名

出席率67.05% 修正出席率84.27%
(4月5日分)

●ビジター紹介

志水 ひろみさん(春日井RC)

●ゲスト紹介

ゲストスピーカー

三重県水産研究所 研究監理官

津本 欣吾氏

●ニコボックス

「本日の卓話のお返し」

津本欣吾氏

「本日、卓話を三重県水産研究所研究監理官の津本
欣吾さまにお願いしました。よろしくお願ひします。」

伊藤尚貴君

本日のニコボックス 2件 15,000円

累計 135件 1,411,000円



柏木博喜幹事報告

▽当クラブ行事予定

・4月26日(水) 例会終了後、理事会を開催致します。

※理事及び役員のご出席をお願い致します。

・5月3日(水) 祝日のため、休会です。

・5月17日(水) 職場例会を開催致します。9時に名古屋テレビ塔北駐車場に集合し、バスにて駒ヶ根に行きます。

※5月17日(水)ウェスティンナゴヤキャッスルでの例会はございません。

・5月24日(水) 2017～18年度第1回クラブアッセンブリーを開催致します。
場所はウェスティンナゴヤキャッスル、時間は18時～です。

※2017～18年度の理事及び役員、各委員長のご出席をお願い致します。委員長ご欠席の場合は、代理の方のご出席をお願い致します。

※本日、会員名簿を配布しております。

高木一平会長挨拶

“青春とベートーベン”

私は高校時代に音楽を始めたのですが、当時は吹奏楽部の一員で楽器はトランペットでした。聴くのも演奏するのも専らクラシックで、今のようにサクソでエロエロジャズをやるとは思ってもみませんでした。

ロマン・ロランの伝記小説「苦悩の英雄ベートーベンの生涯」というクラシック通の間ではバイブルのような本があり、これを読んでベートーベンが大好きになり、

楽聖の音楽と「苦悩を通じて歓喜を」という生き方に大きく影響を受けたものです。ロランはベートーベンを深く愛した作家で、他にも楽聖をモデルにした「ジャン・クリストフ」という長編教養小説を残しています。この難しい本も粋がって訳も分からず読んでいました。そんなことで私も一時期、ベートーベンの研究者になろうかと考えたくらいです。

ベートーベンというと雄渾で壮大な楽想の曲を思い浮かべる方も多いでしょうが、実は大変繊細で優美なメロディメーカーでもあります。交響曲では第7番の第二楽章はこの世のものとも思えない美しい旋律を持ち、「不滅のアレグレット」と呼ばれています。この曲に惚れ込んだ私は吹奏楽用の譜面がないので自ら吹奏楽用に編曲しました。その時すでに3年生で、クラブは引退して受験勉強中でしたから、指揮者兼編曲者として学園祭に颯爽と登場し、後輩に演奏させたものです。

皆さんも経験があるかと思いますが、受験勉強中などの追い込まれた時には、時間がないのに何故か勉強以外のことをやりたがるものです。私の場合、今から考えると信じられないくらい高い集中力で無駄なことをやっていた気がします。この編曲の一件もそうですが、並行して一日一冊ぐらいの速読ペースで小説を読んでいました。

もしも青春時代を定義するなら、この時の様に壮大で無駄な事業に費やされる異常な高エネルギーが持続する時期だと思います。その上、結果などどうでも良いという開き直った精神が必要条件です。

お蔭で受験は失敗に終わりました。

卓 話

海洋の環境保全について考える

三重県水産研究所研究管理監 津本欣吾 皆さんの最も身近な海である「伊勢湾」は、愛知県、三重県、岐阜県、長野県を流域に持つ日本最大級の内湾です。木曾三川をはじめとする多くの河川によって運ばれる陸域の豊富な栄養分により、生産性が高く、アサリやハマグリ、イカナゴ、イワシ類、黒海苔など豊かな水産資源を育む豊穡の海です。しかし、近年貝類や



カレイ類などの底魚資源の減少が著しく、アサリについては、1980年代に15,000トンあった三重県の漁獲量は、2015年には100トンまで減ってしまいました。これら資源の減少原因の一つが、夏場を中心に海底の酸素が少なくなる

「貧酸素化」現象です。ほとんどの生物の生存が困難な酸素濃度（2mg/L以下）にまで低下した水塊を「貧酸素水塊」といい、伊勢湾中央部の底層は6～10月にかけてこの「貧酸素水塊」に広く覆われ、貝類等の底層にすむ生物に悪影響を与えています。一方、水質については、1970年代以降改善傾向にあり、水の汚れの指標となるCOD（化学的酸素要求量）の低下や透明度の向上が顕著にみられます。このように、伊勢湾は「きれい」なりつつありますが、まだ「豊かさ」は取り戻しておらず、引き続き、流域住民や行政の協力による流入負荷の削減や、干潟や藻場の再生による水質浄化機能を高める取組が求められています。

また、三重県を代表する食材の一つであり、全国1位の漁獲量（平成27年）を誇るイセエビも、三重県では安定して漁獲されるものの、藻場の減少等生息環境の悪化が原因で漁獲量が減少している海域もあります。こうした資源の減少に備え、三重県では人工種苗の放流による資源の維持をめざし、イセエビの種苗生産技術の開発研究を行っています。



例会	月日	今後の予定
第2171回	4.26	公益社団法人 日本ペストコントロール協会 会長 平尾 素一さん 「日本を狙う昆虫媒介性感染症と 日本ペストコントロール協会の活動」
	5.3	法定休日(例会はございません)

○このウィクリーは再生紙を使用しております。